

Anubis QuickStart

Contents

[必要なソフトのインストール](#)

[LANポートの設定](#)

[RAVENNAドライバの設定](#)

[電源スイッチ](#)

[Anubis SPS の LANポート](#)

[Mission の選択](#)

[初回の起動直後の設定](#)

[ボタンの操作](#)

[入出力の呼び方と設定](#)

[設定例](#)

[リモートコントロール アプリケーション](#)



必要なソフトのインストール

※ Pyramix MassCore を使用されているユーザーは、この章を飛ばしてお読み下さい。

Anubis を DAW と接続して PC からリモート コントロールするには、最低 3つのソフトウェアが必要です。作業環境に合ったものをダウンロードしてインストールしてください。

※注意: DAW が動作する PC/Mac は、DPC Latency を解消したものを使用してください。

1. Google Chrome

Anubisのリモートコントロールや、ファームウェアの更新に使用します。
他のブラウザでも動作しますが、Merging社と弊社では Google Chrome のみで検証を行っています。

2. ANEMAN

Merging社製の RAVENNA/AES67 機器間の接続を行います。

<https://merging.com/support/downloads#aneman>

Merging 社製でない RAVENNA/AES67 機器間の接続を行うには、Webブラウザからそれぞれの機器の *Advanced Page* を使用して接続を行います。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

3. RAVENNA ドライバ

RAVENNA は ネットワークを使ってデバイス間のオーディオのやり取りを行う、AES67 と互換性のある AoIP 方式です。

Windows用ドライバ Merging Audio Device (MAD)

Windowsで標準に使用されているWDM、音声用アプリケーションでよく使用されるASIOと、AoIP RAVENNA/AES67の相互変換をする Windows10/11 64bit 用のドライバです。

MAD を使用するネットワークアダプターは、通常のネットワークとは別に**AoIP** 専用のネットワーク インターフェイスをご用意ください。

※注意: ネットワークインターフェースには [ここ](#)にあるような設定を行ってください。

※注意: 弊社がこれまで使用したネットワーク アダプターに関する情報は [ここ](#) にリストされています。

Mac用ドライバ Merging RAVENNA/AES67 Virtual Audio Device

Apple Macintoshの標準音声バスであるCore Audioと、AoIP RAVENNA/AES67の相互変換をするドライバです。

[リンク](#)から Merging Confluence に飛び、[Mac OSのバージョンに合ったバージョン](#)をインストールしてください。





インストールが終わったら、LANケーブルでAnubisとPC/Macを接続してください。

※注意: Macの本体に装備されている 10Gb のイーサネットアダプターはサポートされていません。

※注意: M1 Silicon を使用しているMacは、USBのパフォーマンスが脆弱です。以下の Thunderbolt LAN アダプターのご使用を検討してください。

<https://www.sonnettech.com/product/thunderbolt-avb-adapter/overview.html>

4. Anubis Remote

Anubis Firmware 1.4.0 から Firmware が Toolkit として配布されるようになりました。
この Toolkit の ZIPファイル には、Anubis Remote が含まれています。

Anubis Remote をインストールすることにより、Anubis の画面が PC上に表示され、本体を操作するようにリモートコントロールすることが可能になりました。

このアプリケーションは 必須ではありませんが、インストールすることをお薦めします。





LANポートの設定

電源管理機能 の 無効化

Windows コントロールパネル > デバイスマネージャー で、ネットワークアダプターを探し、カードを選択して右クリック > プロパティを開いてください。

以下の様な「電源管理機能」関係の設定 を 無効 に設定してください。

- **Green Ethernet** を 無効 に設定してください。
- **Energy Efficient Ethernet** を 無効 に設定してください。
- **Ultra Low Power mode**(超低電力モード) を 無効 に設定してください。
- **System Idle Power Saver**(システムアイドル時の省電力) を 無効 に設定してください。

これらのオプションは通常「電源管理」タブにあります。NICのメーカーやモデルによって場所が異なる場合があります。

- **Reduce link Speed during standby**(スタンバイ時にリンク速度を下げる)を 無効 に設定してください(特にRAVENNAネットワークでスイッチを使用している場合)。
- **Reduce Speed on Power Down**(電池が減ってきた時に速度を下げる)も 無効 に設定してください。
- **Wake on LAN** も 無効 に設定してください(これは必須ではありません)。

追加の注意事項

- **Jumbo packet**(ジャンボ パケット)はサポートされていません。
- **Interrupt Moderation**(割り込み節度)は、無効 にすると(デフォルトでは有効)シンク ジッターの削減に役立つことがあります。
- **Receive Side Scaling**(受信側スケーリング)は、デフォルト値で 有効 にする必要があります。
- **Receive Side Scaling Queues**(受信側スケーリングキュー)は、キューが 2 つあるとパフォーマンスが非常に低下する可能性があるため、1(デフォルト値)に設定する必要があります。
- パフォーマンス オプション は通常、デフォルト値 のままにしておいてください。これは以下の設定を行うことと同義です。
 - **Adaptive Inter-Frame Spacing**(アダプティブ インターフレームスペーシング)を 無効 に設定
 - **Flow Control**(フロー制御)を RX と TX に設定
 - **Interrupt Moderation rate**(割り込み節度レート)を Adaptive に設定
 - **Receive Buffers**(受信バッファ)を 256 に設定
 - **Transmit Buffers**(送信バッファ)を 512 に設定
- Realtek 2.5 GbE コントローラー では、受信バッファのデフォルト値が 512 に設定されていることがあります。これは 256 に設定してください(送信バッファは 512 のままにしてください)。
- Windows 10 から Windows 11 にアップグレードすると、「RSS Queues」など 特定の設定にアクセスできなくなる場合があります。そのような場合は、「デバイスマネージャー」を開き、ネットワークアダプターを右クリックして「ドライバ」に移動し、「ドライバのダウングレード」を選択してください。これにより、非表示の設定にアクセスできるようになります。





RAVENNAドライバの設定

※ MassCore PC を使用されているユーザーは、この章を飛ばしてお読み下さい。

ドライバーを開いて以下の確認と設定を行ってください。詳細は各マニュアルを御覧ください。

1. **Anubisと接続しているLANポートが NETWORK INTERFACE で選択されていることを確認してください。**

OPERATING MODES
UNITE - RAV/AES67

STATUS SECTION

DISCOVERY ZONE and device access

NETWORK INTERFACE

ADVANCED SETTINGS

VAD Version

Merging RAVENNA/AES67 Settings

UNITE RAV/AES67

VAD is united with Anubis_660037

Status: Running
Sample Rate: 44100 Hz
PTP: Locked

Network Discovery

Ricardos-MacBc Anubis_660037

Network Adapter

Interface: USB 10/100/1000 LAN (en7: 169.254.8.155) Auto

Advanced Settings

Latency: 6 ms (288) Safe Mode
Sample Rate: 44100 Hz Follow DoP detection
Inputs: 8
Outputs: 8

3.0.0 RC1 Build47300





OPERATING MODES →

STATUS SECTION →

DISCOVERY ZONE and device access →

NETWORK INTERFACE SETTINGS →

MAD Version ←

ADVANCED SETTINGS ←

注意:

このマニュアルでは ANEMAN を使用して機器を接続しますので、MAD/VAD の *OPERATING MODE* は **RAC/AES67** に設定してください。

なお、*OPERATING MODE* を切り替えると 全ての Stream の接続は切断されますので、ご注意ください。





2. ADVANCED SETTINGS で 入出力数を使う分だけ 設定してください。

Number of Channels

Inputs: 32

Outputs: 32

Channel Settings

		44.1/48k	88.2/96k	176.4/192k	352.8/384k
Inputs:	16	16	8	4	2
Outputs:	16	16	8	4	2
Bridges:	0	0	0	0	0
Ordering:	<input type="checkbox"/> List Bridge Channels Before I/O's				

3. Latencyを **48(1ms)** に設定してください。

Anubisのデフォルトは 48 sample になっています。AnubisのLatencyと合わせてください。

Interface: Thunderbolt Ethernet (en3: 169.254.218.124) ☒ Auto

Latency: 10 ms (480) ☒ Safe Mode

Frequency: 44100 Hz ☒ Follow DoP detection

ASIO Settings

Master ASIO host: (Default)

Sample rate: 48000

Buffer size: 192 [smp] @ 44.1kHz/48kHz

ASIO hosts: ☒ Mix safe mode

Master ASIO host とは サンプル周波数を決めるアプリケーションの選択個所で、一度でも MAD を使用したアプリケーション が自動的に登録されます。

初めてMADを使用する場合は なにも登録されていないので、敢えて設定するなら **Merging Audio Device** (MAD自身という意味) にしてください。この場合、MADを使用するDAWもそのサンプル周波数で動作することになります。

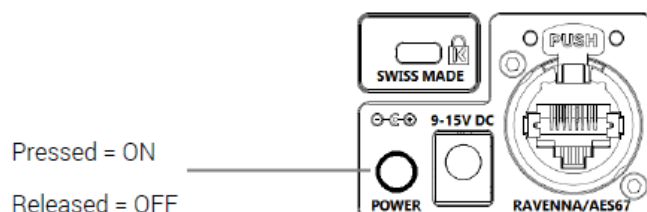




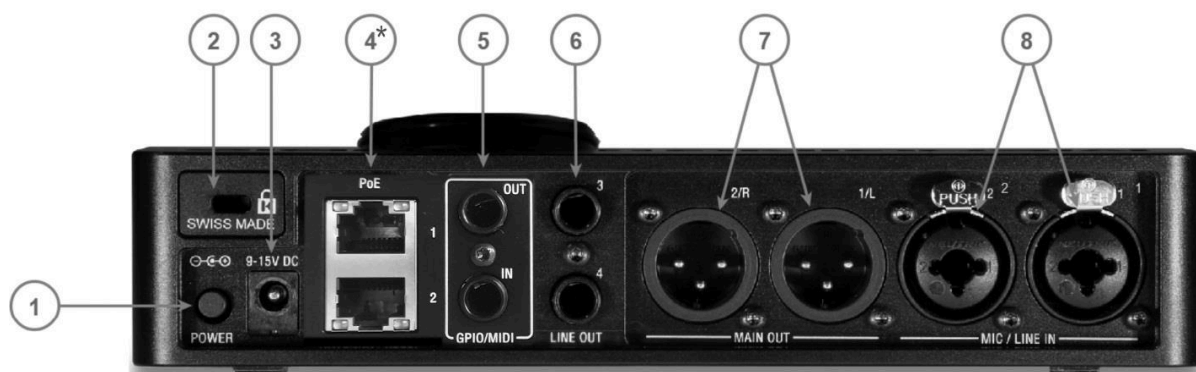
電源スイッチ

電源コネクタの隣には電源スイッチがあります。スイッチを押し込んでON、もう一度押してスイッチがリリースされた状態でOFFです。

ONにすると全てのスイッチが点灯し、ファームウェアの起動が始まります。数十秒後にファームウェアの起動が完了すると、LCDスクリーンに操作画面が表示されます。



Anubis SPS の LANポート



Anubis SPS には 2つのLANポートが装備されています。これらは2つの用途(スイッチとST2022-7)に Setup > General で切り替えて使用できます。詳しくはここを参照してください。

PoE を使用する場合は、上側の LAN ポートを使用してください。

LANの配線が終わったら、Anubis の電源を入れて下さい。

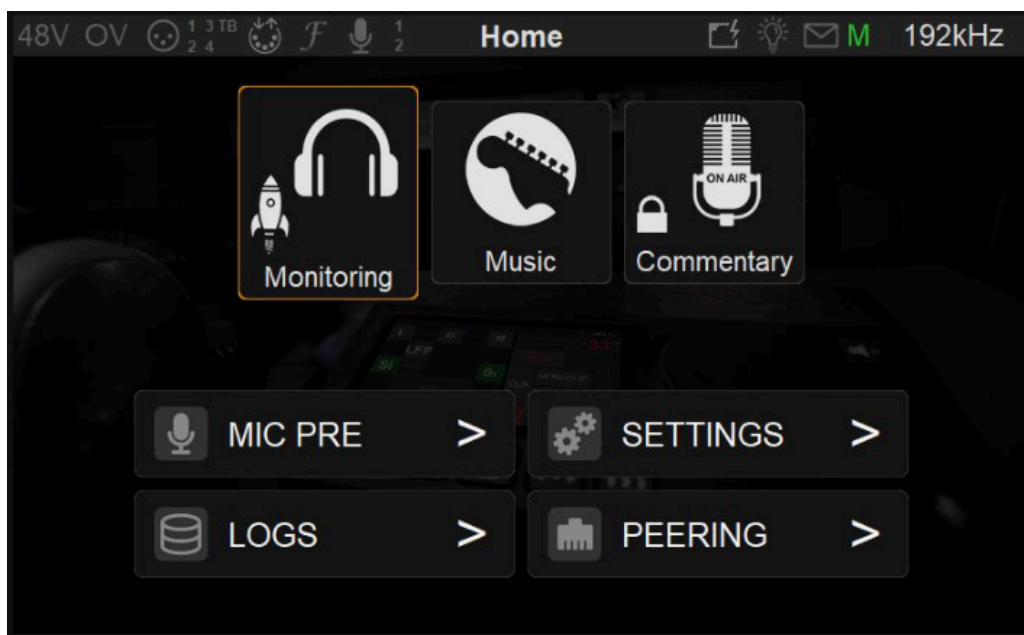




Mission の選択

Anubis Firmware 1.1.x から、初回の起動時に“Mission ホスティング”と呼ばれるアイコンが表示されます。これは将来リリースされる“Mission”を選択することで、Anubisを様々な用途に使用可能にすることを目的としています。

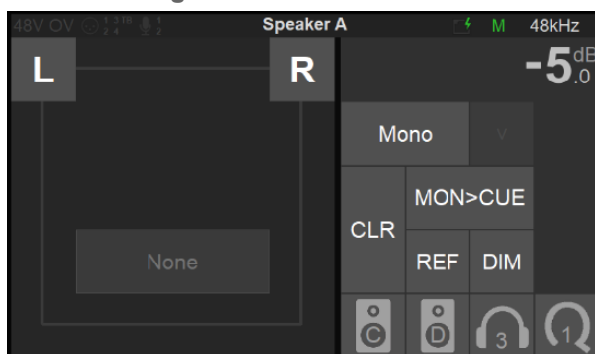
現在は“Monitoring Mission”と“Music Mission”が選択可能です。このマニュアルでは Monitoring Mission について説明していますので、“**Monitoring**”のアイコンにタッチして起動を続けて下さい。





初回の起動直後の設定

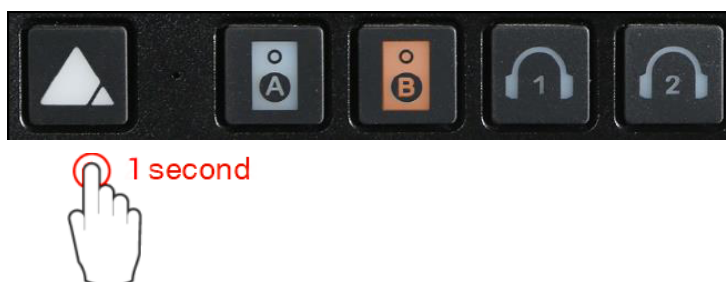
Anubisの起動が完了すると、“**Monitor Page**”と呼ばれる下図の画面が表示されます。



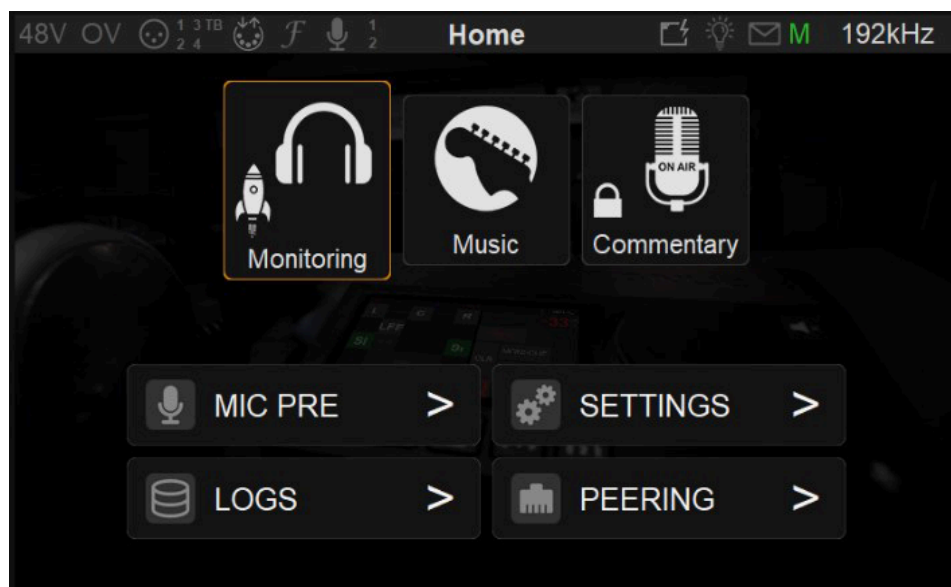
いろいろと触り始める前に、1) TFTスクリーンの輝度調整 と 2) ボタンの輝度調整、3) LANポートのモード設定 (Anubis SPS ユーザーのみ)を行って下さい。

Anubis の Home ボタン と Home ページ

Anubisの最も左側についている、ピラミッド アイコンのボタンを “Home ボタン” と呼びます。ホームボタンを1秒以上押し続けて下さい。








スクリーンは、下図の “Home” ページ と呼ばれるページに切り替わります。元の表示に戻るには Home ボタンを押すと戻れます。Missionを切り替えたい場合や設定を変更したい場合は、この “Home” ページで行います。















“Settings” にタッチすると、Settings ページが表示されます。

Settings		M 48kHz
	General	>
	Meters	>
	Presets	>
MONITORING		-
	Sources	>
	Monitors	>



TFT画面を上下にスクロールさせると、Settingsのエントリーを確認できます。

MONITORING		-
	Sources	>
	Monitors	>
	Monitor Levels	>
	Talks	>
I/O		-
	Audio Inputs	>
	Audio Outputs	>
	Triggers	>
	Info	>
	Debug	>
	Exit	>

TFTスクリーンの輝度とボタンの輝度の変更



General Settings にタッチして入ります。

「TFTスクリーンの輝度調整」と「ボタンの輝度調整」は下にスクロールして、**INTERFACE CONTROLS** のセクションにあります。



Brightness Display にタッチして ロータリー エンコーダ を反時計回りに回し、TFTスクリーンを適当な輝度に調整してください。





Button Intensity にタッチして ロータリー エンコーダ を反時計回りに回し、ボタンの輝度を適当な香料に調整してください。

ST 2022-7 mode の設定

Anubis SPS ユーザーは、さらに下にある **NETWORK** を探して下さい。

< Settings General 48kHz

NETWORK

ST 2022-7 mode

Interface 1

Obtain an IP address Auto

IP address 169 254 110 87

Subnet mask 255 255 0 0

Default gateway 0 0 0 0

Apply & Reboot

Interface 2

Obtain an IP address Auto

IP address 192 168 0 39

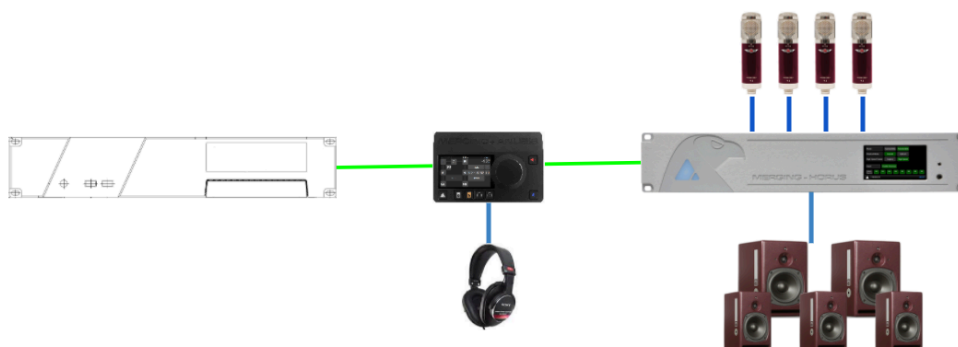
Subnet mask 255 255 255 0

Default gateway 0 0 0 0

Apply & Reboot

Anubis SPS は、2つのLANポートを “**ST 2022-7 モード**” として使用できます。このモードでは、2つ目のLANポートをリダンダンシーとして使用します。このモードでのセットアップについては、次のリンクを参照してください。<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pageId=68747294>

”**ST 2022-7 mode**” になっていない場合、2つのLANポートは “**スイッチ モード**” になります。スイッチモードでは、その名前の通り、もう一台の RAVENNA 機器を接続することができます。つまり、ネットワーク ハブとして Anubis を使用することができます。デフォルトは ”**ST 2022-7 mode**” を **Disable** にして スイッチモードに設定してください。



※ 設定が終わったら、**Home**ボタンを短く押して **Monitor** ページに戻して下さい。





ボタンの操作

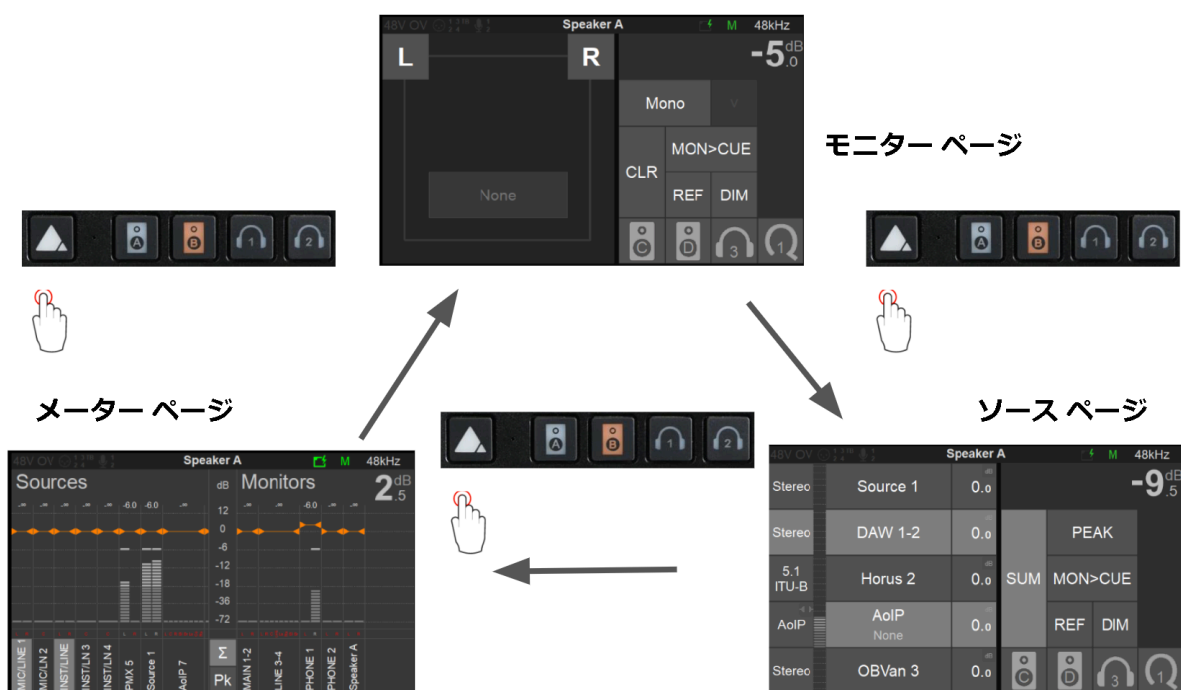
Home ボタン



Home ボタンはAnubisの前面LCD左下にある Merging 社のロゴがついたボタンです。

Home ボタンと画面のサイクル

- Home ボタンを短く押すと、LCDスクリーン上の表示が切り替わります。
- スクリーン表示には3ページあり、Home ボタンを短く押すと表示をサイクルします。

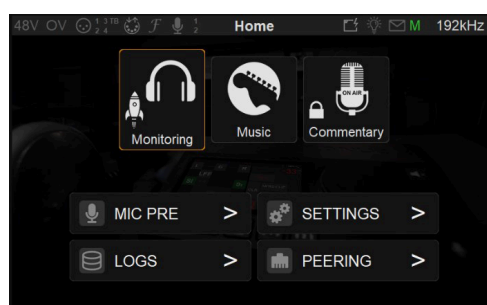




ページ名	GUI	役目
モニター ページ		モニタースピーカーのコントロール (Cut, Solo, Dim, Ref など)を行います。
ソース ページ		モニターするソースを選びます。
メーター ページ		Source と Monitor のレベル監視ができます。 また、それらの個々のレベル調整が行えます。

Home ボタンの長押し

どのページからでも、Home ボタンを1秒以上長く押すと、LCDスクリーンの表示が上記の3つの表示モード以外のページが表示されます。



- **Settings ページ** では、各種の詳細な設定を行います。
- **Mic Pre ページ** では、マイク / ライン アンプの設定が行なえます。
- **Logs ページ** では、Anubisが報告するエラーログを確認できます。

スクリーンをタッチすると、その中のメニューに入ることができます。

* このページから離れるには、Home ボタンを再度短く押してください。





※ 注意 ※

このセクション以降は、前セクションで上げた3つのソフトウェア (MAD または VAD, ANEMAN, Chrome) をインストールし、動作確認が終わっているという設定で説明を行います。

まだソフトウェアをインストールされていない方は、インストール後にお読みください。

入出力の呼び方と設定

Anubis + Monitor では、**入力を Source** と呼び、**出力を Monitor** と呼びます。

Source

- **Source**とは Anubis の入力の事です。
- Anubis が装備している XLR や TRS ジャックの他、RAVENNAネットワーク上のデバイスの物理入力も利用することができます。
- Anubisでは「何チャンネル入力したいか？」のチャンネル数を **Type** で決めます。
- **Source**は 最大で合計128ch (@1Fs)まで設定できます。
- Type の “CC” や “CCCCCCCC” は 複数の入力を L/R に分けて聴きたくない場合に 使用します。
- 新しい **Source** を作成すると、ANEMAN 上の Anubis入力にそのポートが追加して表示されます。

Monitor

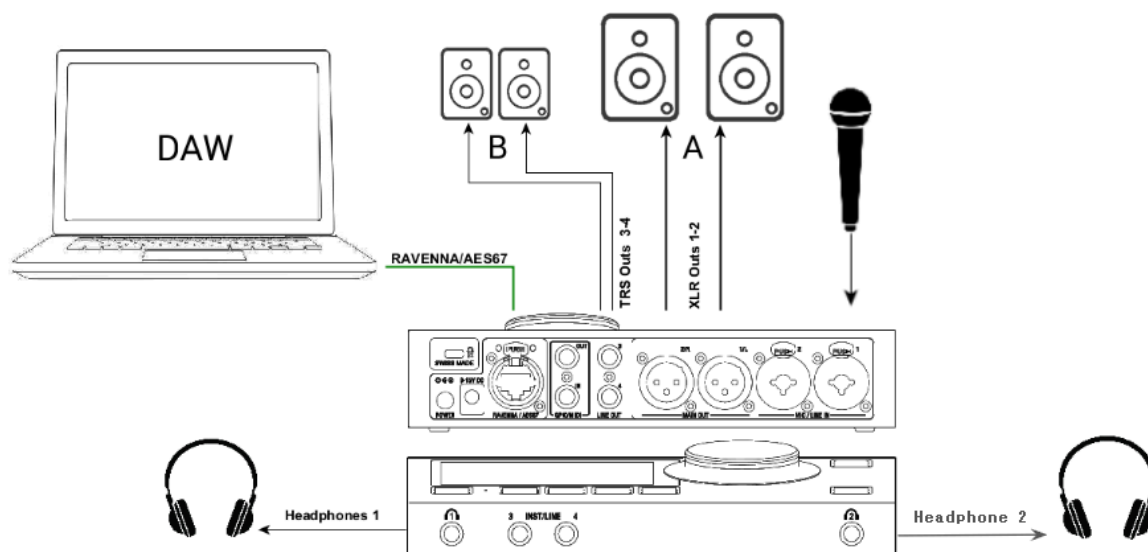
- **Monitor**とは Anubis の出力の事です。
- Anubis が装備している XLR や TRS ジャックの他、RAVENNAネットワーク上のデバイスの物理出力も利用することができます。
- 出力にもチャンネル数を表す **Type** があります。
- **Monitor** には、3つの **Mode** (**Speaker, Headphone, Cue**) があります。
- Anubisの 最大出力は 32ch (@1Fs)です。
- 設定で最大出力数を越えようすると警告が表示されます。
- 新しい **Monitor** を作成すると、ANEMAN上の Anubis 出力にそのポートが追加されます。
- Speaker と Headphone は 常に同じ Source が選ばれます。
- Headphone には L/R をミックスして聴くための “CROSSFEED” があります。
- Cue は これらとは別の Source を選択することができます。
- Cue には Talkback を混ぜることができます。





設定例

ボーカル ダビングを行う想定で、DAWからのステレオ プレイバックとマイク入力を作成してみましょう。



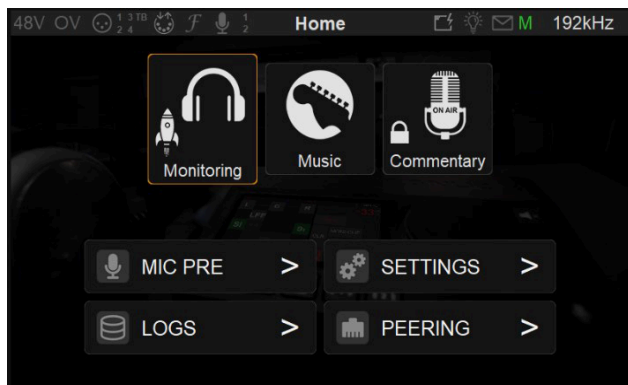
- 作業をボーカリスト(アナウンサー)とミキサー(エンジニア)の2人で行うと仮定します。
- モニター スピーカーが 2セット(Main/Alt)あると仮定します。これらは Anubis で切り替えて使用します。
- ヘッドフォン端子1をミキサー(エンジニア)が使用します。
- ヘッドフォン端子2をボーカリスト(アナウンサー)が使用します。
- トークバックが行えるように設定します。
- トークバック時、スピーカーがDimするように設定します。



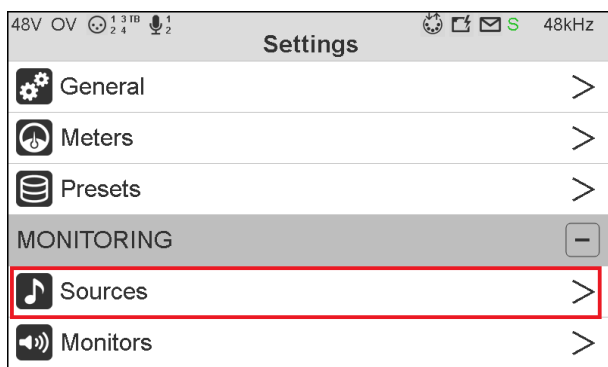


Source の設定

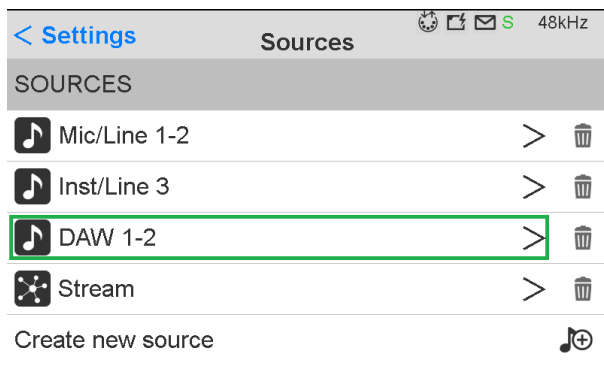
1. ホームボタンを長押しして "Settings" にタッチします。



2. "Sources" にタッチします。



3. デフォルトでは "DAW 1-2" という項目があります。これをDAWからのプレイバック用に使用することになります。ここでは何も作成せずに、後でANEMANで接続することになります。

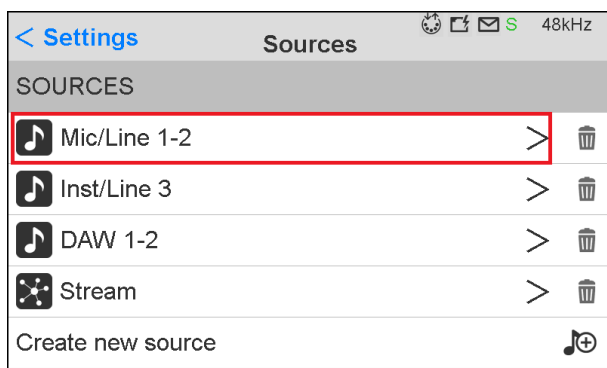


次にマイク入力ですが、Anubisのマイク入力(Combo 1/2_1)端子を使用することになります。

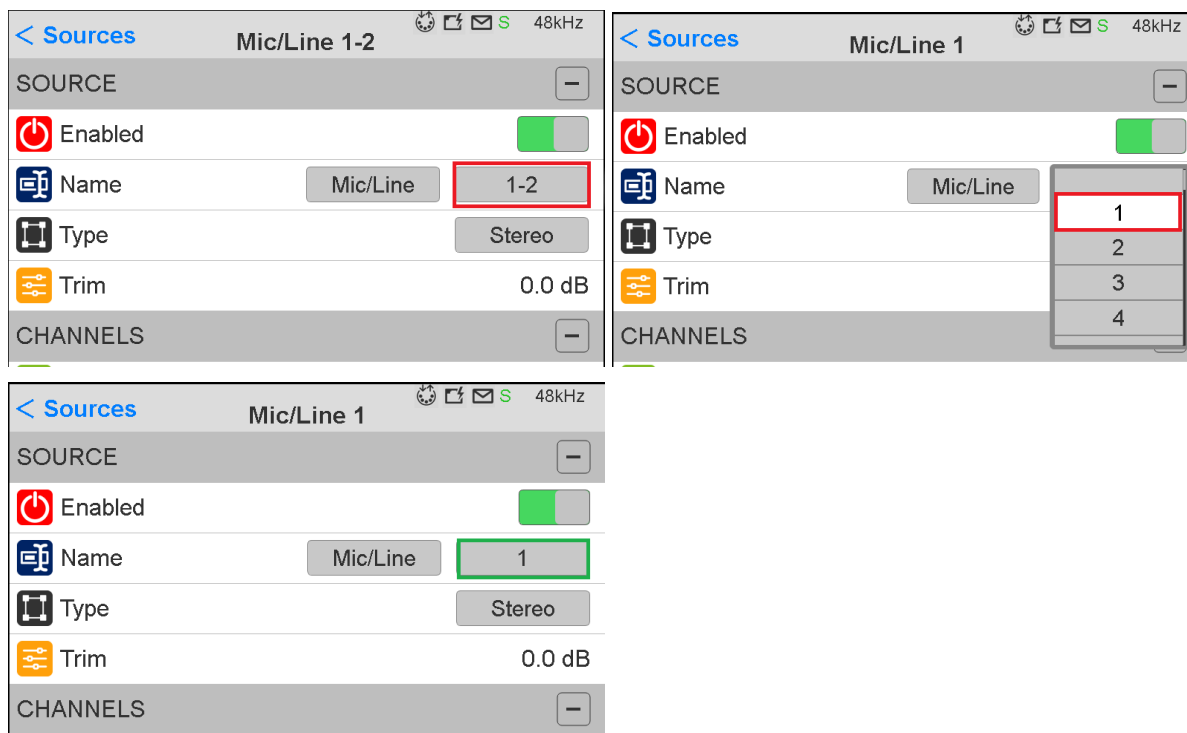
Anubisの Combo 1/2_1 端子は、デフォルトで Source の "Mic/Line 1-2" で使用されていますので、"Mic/Line 1-2" を変更して使用することになります。

4. "Mic/Line 1-2" にタッチします。



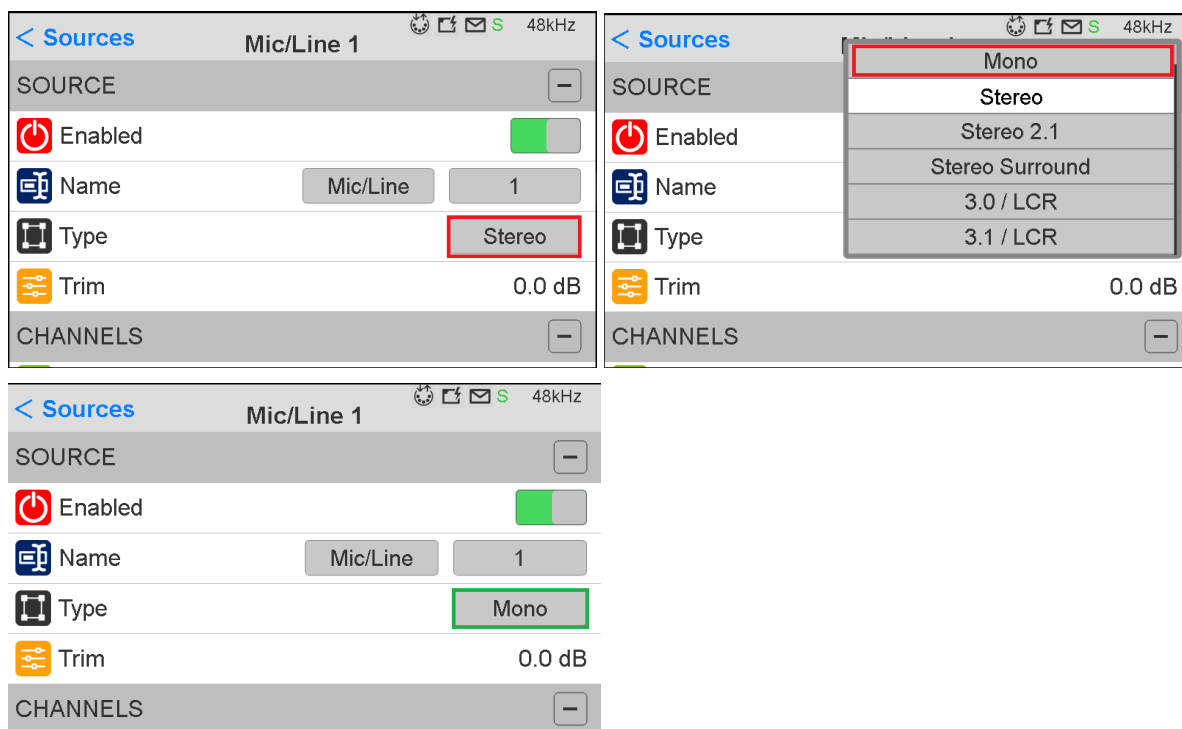


5. 紛らわしいので、“Name”に入っている “[Mic/Line] [1-2]” の [1-2] にタッチし、スクロールさせて **[1]** にします。



6. “Type”で設定されている [Stereo] にタッチしてスクロールし、**[Mono]** に変更します。





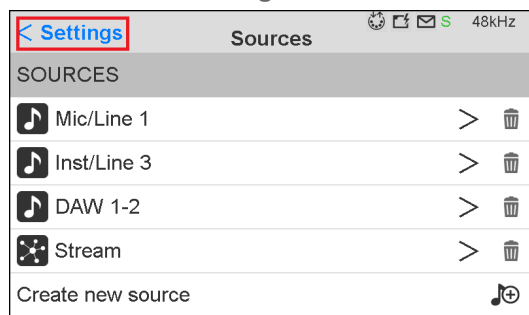
7. 画面にタッチして少しスクロールさせ、“CHANNELS”を表示させ、“Patch”の下ボックスを **[Combo 1/2_1]** に設定します。



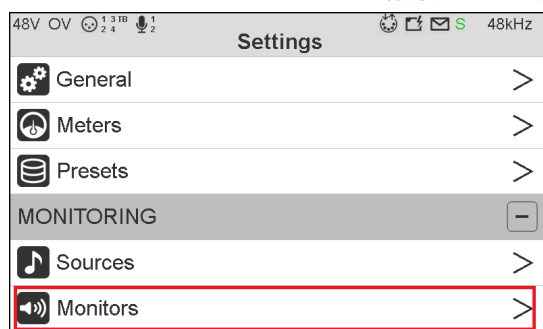


Monitor の設定

8. LCDの左上の "Settings" 部分にタッチし、Settingsの最上階層に戻ります。



9. "Monitors" にタッチして Monitor 階層に入ります。





10. Main 1-2 の設定

10.1. “Main 1-2” にタッチし、Main 1-2 の設定を行います。

- ここで Main 1-2 はAnubis背面の **XLR端子** から出力することになります。
- また、Talkback が押されたときにDimするように設定します。

10.2. ほとんどデフォルト通りで変更箇所がありません。唯一、Talkback 部分のみ設定変更があります。

これは、

- Talkボタンを押したときに、スピーカーからの音が -20dB Dimするようにする
- Talkボタンを押したときに、スピーカーからTBマイクの音が出ないようにする(フィードバック防止) ためです。

次の表では、変更する部分のみハイライトしています。

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	Main 1-2	Main 1-2
Mode	SpeakerSet	SpeakerSet
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	Speaker A	Speaker A
Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	XLR 1/2 _1	XLR 1/2 _1
Right	XLR 1/2 _2	XLR 1/2 _2
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	-20 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talker Dim	0 dB	-60 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talk A	None	Talk 1
Talk B	None	None

10.3. 左上の “Monitors” にタッチし、上の階層に戻ります。





11. “Alt 3-4” の設定

11.1. 同様に “Alt 3-4” の設定を行います。Alt 3-4 の出力端子は、Anubis背面のステレオ ジャックにします。

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
 Enabled	Enable	Enable
 Name	Alt 3-4	Alt 3-4
 Mode	SpeakerSet	SpeakerSet
 Trim	0.0 dB	0.0 dB
 Button	Speaker B	Speaker B
 Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	Jack 3/4 _3	Jack 3/4 _3
Right	Jack 3/4 _4	Jack 3/4 _4
TALKBACK		
 Source Dim	0 dB	-20 dB（数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します）
 Talker Dim	0 dB	-60 dB（数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します）
 Talk A	None	Talk 1
 Talk B	None	None





12. “Phone 1” の設定

- 12.1. 同様の手順で “Phone 1” の設定に入ります。
- 12.2. Anubis 前面の “Phone A” 端子を使用します。
- 12.3. “Phone 1” はミキサー（エンジニア）用のヘッドフォンですので、
 - TBを押した際にソースレベルにDimをかけます。
 - TBの自分の声を聞くため、Talker Dim はかけないことにします。

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
 Enabled	Enable	Enable
 Name	Phone 1	Phone 1
 Mode	Headphone	Headphone
 Trim	0.0 dB	0.0 dB
 Button	Headphone 1	Headphone 1
 Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	Headphone 1_Left	Headphone 1_Left
Right	Headphone 1_Right	Headphone 1_Right
CROSSFEED		
 Crossfeed	0 dB	0 dB
TALKBACK		
 Source Dim	0 dB	-20 dB（数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します）
 Talker Dim	0 dB	0 dB
 Talk A	None	Talk 1
 Talk B	None	None





13. “Phone 2” の設定

- 13.1. Phone 2 はボーカリスト(アナウンサー)用ヘッドフォンとして説明します。
- 13.2. Anubis 前面の “Phone B” 端子を使用します。
- 13.3. **Mode**を “**Cue**” に変更します。これでモニターSource選択で選択したものではない “Source” を聴くことができます。
- 13.4. “**Mon->Cue Inactive**”(Mon->Cueを動作させない)は、Mon->Cue 機能を使用するので、**Disable** にします。
- 13.5. DAWからのプレイバックが極端なステレオパンニングをしていて聞きにくい場合は、“**Crossfeed**” の値を上げるとモノラルに近づけることができます(100%でMono)

項目	デフォルト値	変更後の値
MONITOR		
Enabled	Enable	Enable
Name	Phone 1	Phone 1
Mode	Headphone	Cue
Mon->Cue Inactive	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Trim	0.0 dB	0.0 dB
Button	Headphone 2	Headphone 2
Type	Stereo	Stereo
CHANNELS		
Left	Headphone 2_Left	Headphone 2_Left
Right	Headphone 2_Right	Headphone 2_Right
CROSSFEED		
Crossfeed	0 %	任意 %
TALKBACK		
Source Dim	0 dB	-20 dB (数字部分にタッチしてダイヤルを反時計方向に回します)
Talker Dim	0 dB	0 dB
Talk A	None	Talk 1
Talk B	None	None

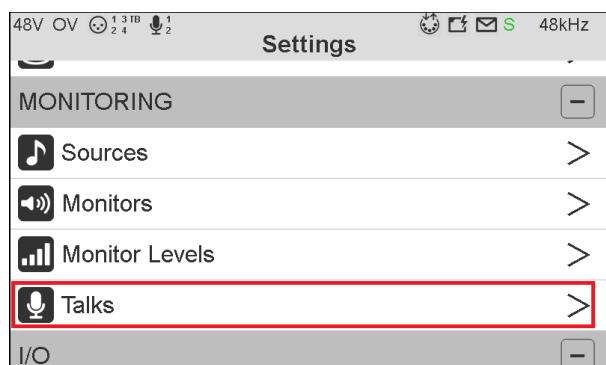




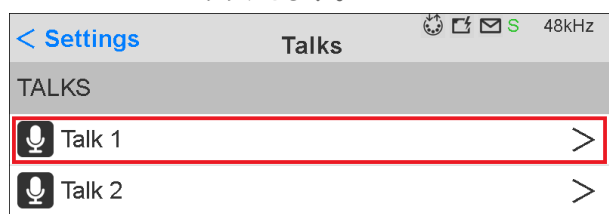
14. Talkbackを設定する

Talkback を設定します。

14.1. "MONITORING" にある "Talks" にタッチしてください。



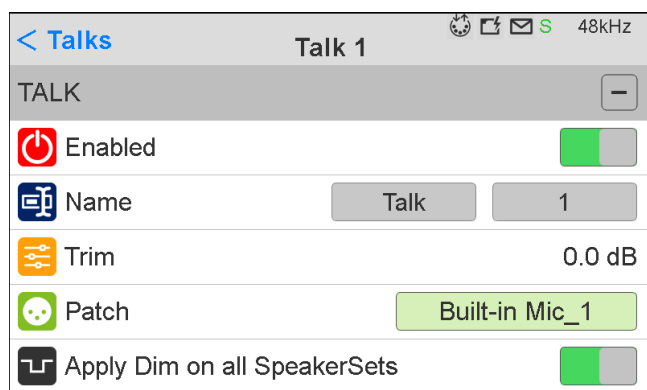
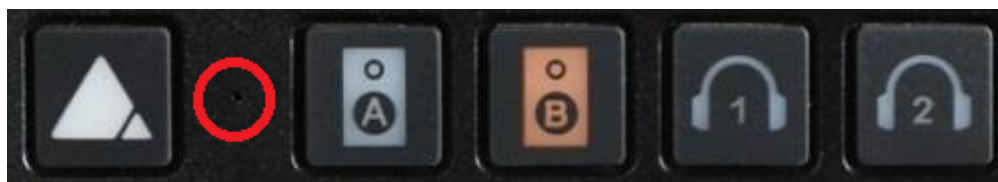
14.2. Talk 1 にタッチします。



14.3. 設定はほとんど変更ありません。

14.3.1. Apply Dim on all SpeakerSets をEnableにする程度です。

14.3.2. マイクはAnubisの内蔵マイクを使用します。マイクはホームボタンの右隣にある穴の中に装備されています。





15. マイク プリアンプの設定

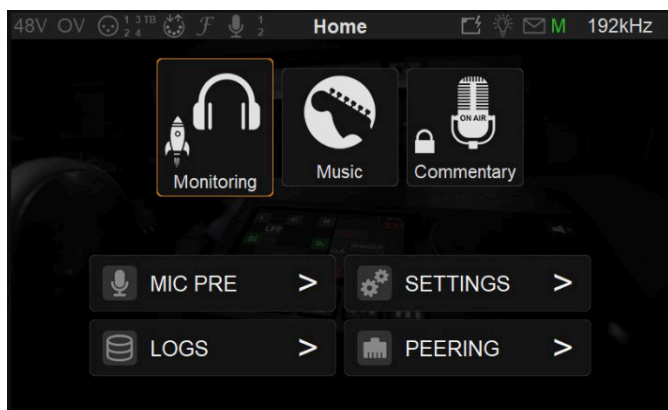
マイク プリアンプはGUIでも設定することができます。

15.1. 本体で調整する方法

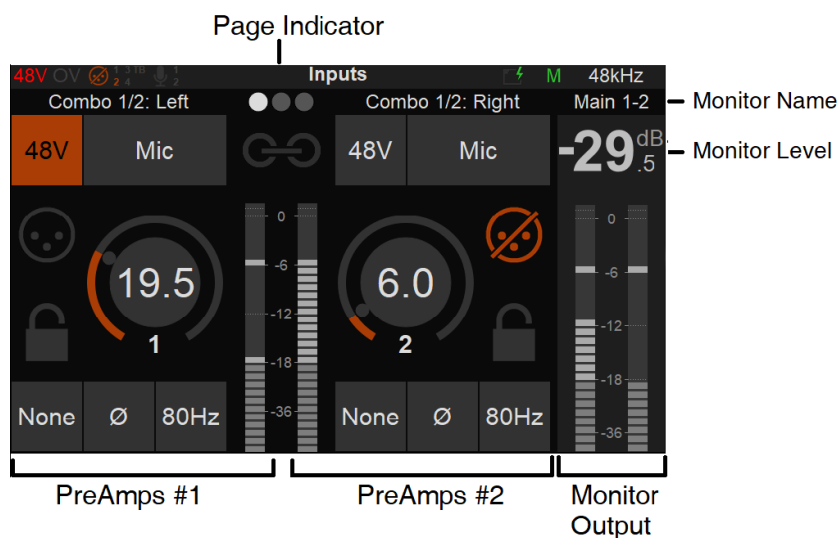
15.1.1. ホーム ボタンを短く1回押し、ホーム画面に出ます(”Settings”を抜けます)。


15.1.2. ホームボタンを1秒間押します。

15.1.3. Mic Pre をタッチします。

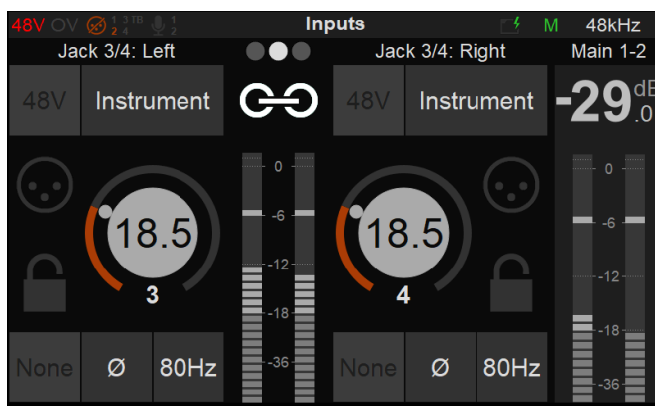



15.1.4. ここには通常、3ページがあります。最初のページは “Combo 1/2” のマイクアンプのページです。

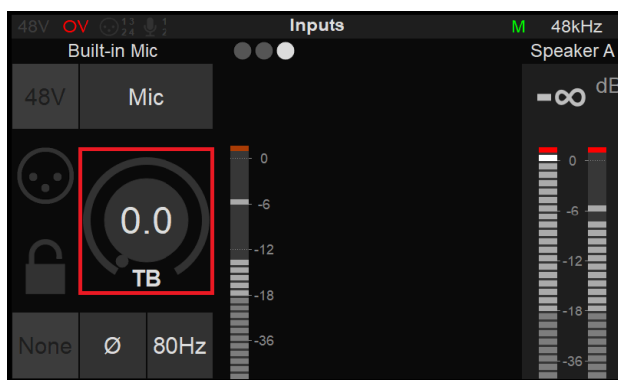


15.1.5. ページを右から左へスワイプ  すると、”Jack 3/4” のライントリムが表示されます。



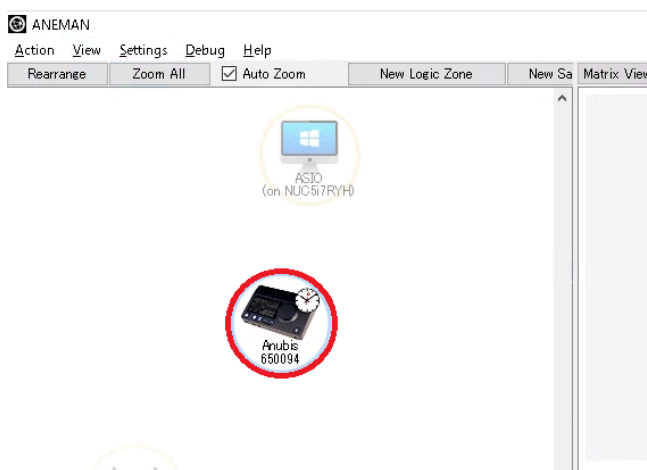


- 15.1.6. もう一度スワイプ  すると、内蔵マイクのマイクアンプが表示されます。
”TB” と書かれたトリム部分にタッチしてダイヤルを回すと、ゲインの調整ができます。



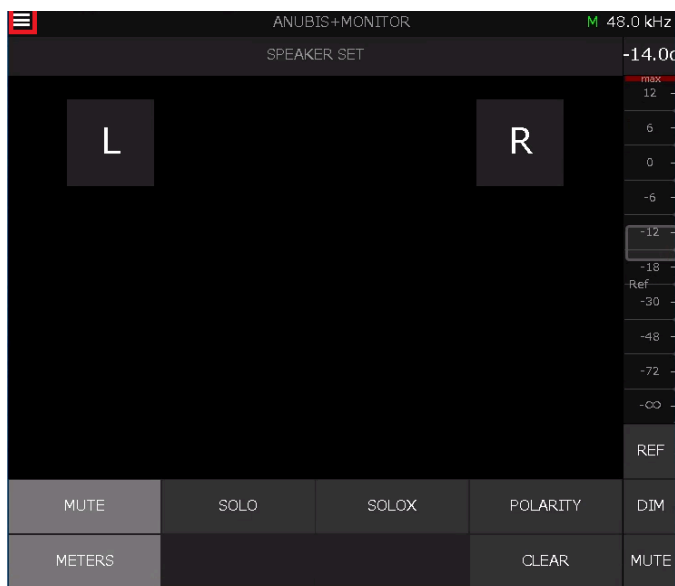
15.2. Web GUIで調整する方法

- 15.3. ANEMEN を起動するか MAD のパネルを広げます。
- 15.4. ANEMAN の左欄(World View)で、Anubis を見つけ、ダブルクリックします。

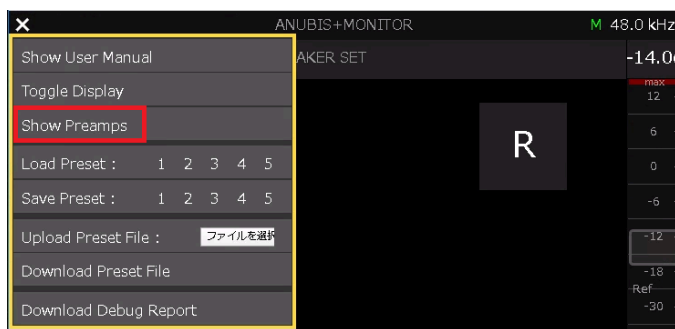


- 15.5. Google Chrome が起動し、AnubisのGUIが表示されます。
- 15.6. 左上にある“三”マークをクリックします。

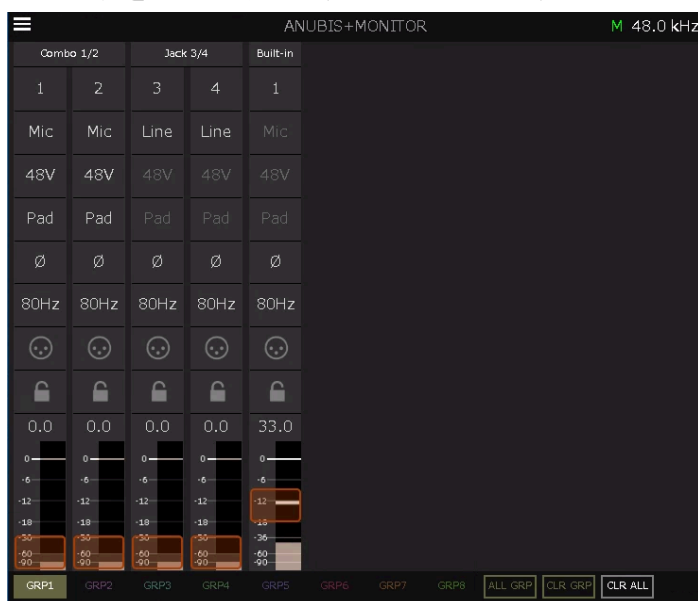




15.7. 表示されたメニューの中の “ ” をクリックします。



15.8. マイクプリアンプのGUIが表示されます。ゲインはマウスでドラッグするか、ゲイン値の数字部分をダブルクリックし、キーボードで入力することもできます。



15.9. 再度、モニターGUIを表示させるには、“三” マークをクリックし、メニューから “Hide Preamps” をクリックします。





16. ANEMAN

ANEMAN は、RAVENNA / AES67 機器の相互接続を行うアプリケーションです。

このマニュアルでは、基本的な操作のみを説明しています。

詳細な使用法は、[マニュアル](#) を御覧ください。

16.1. GUI - Windowの名称

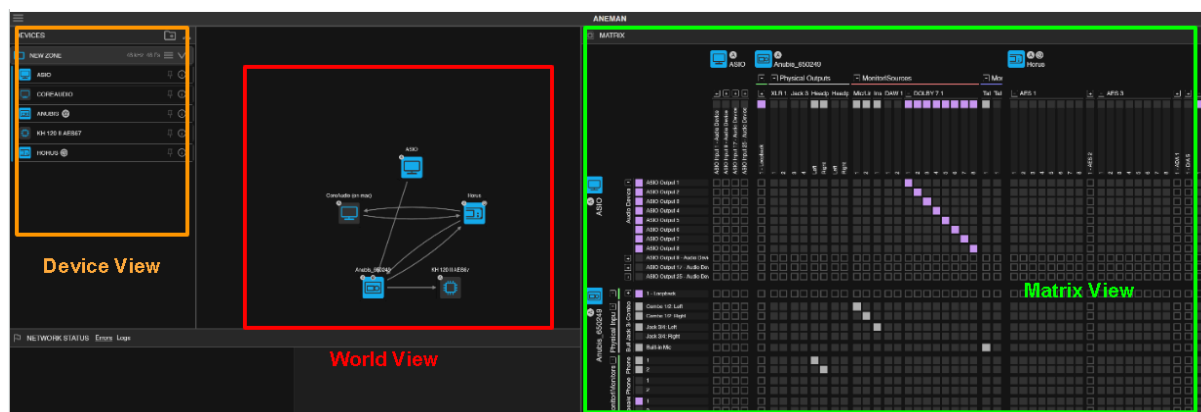
ANEMANを起動すると、大きく分けて 3つのGUIが表示されます。

左側の “**Device View**” と “**World View**” に RAVENNA/AES67 ネットワーク上の機器が表示されます。

その中の機器をマウスでクリックして選択すると、その機器のI/Oを右欄の “**Matrix View**” で見ることができます。

Matrix View の中は、縦に機器の出力 (Monitor)、横に機器の入力 (Source) が表示されています。

マウスで複数の機器をドラッグして選択してI/Oを表示させ、その交点をマウスのクリックし、“**Matrix View**” 右上に表示される “**Connect**” をクリックすると接続するとコネクションが行われます。



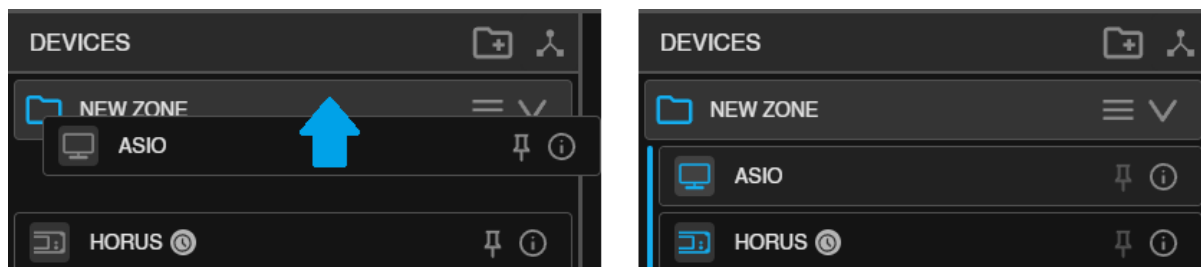


16.2. World View での操作

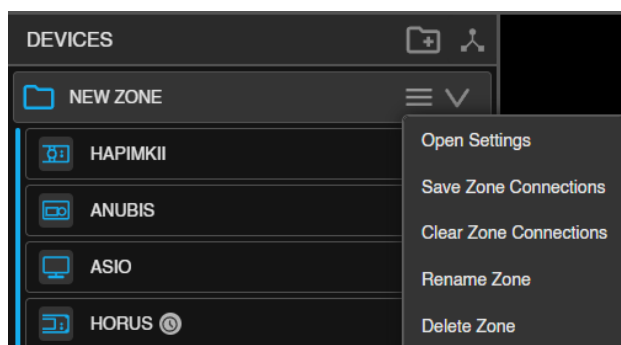
- 16.2.1. “World View” 右上にある [New Sample Rate Zone] をクリックして、新しい Zone を作成してください。



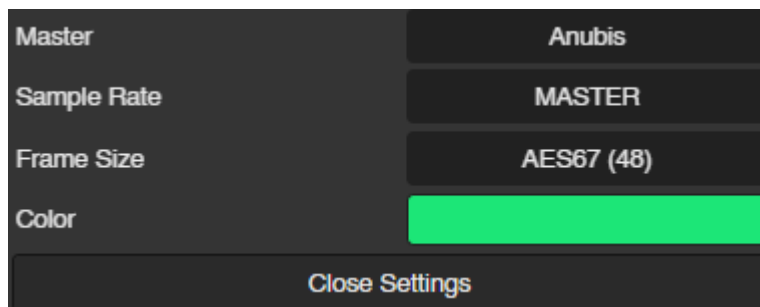
- 16.2.2. Zone の中に、ASIO と デバイスをドラッグして入れます。



- 16.2.3. Zone の右側にある三アイコンをクリックすると Zone メニューが表示されます。



- 16.2.4. Open Settings をクリックして Zone に関する設定を行ってください。



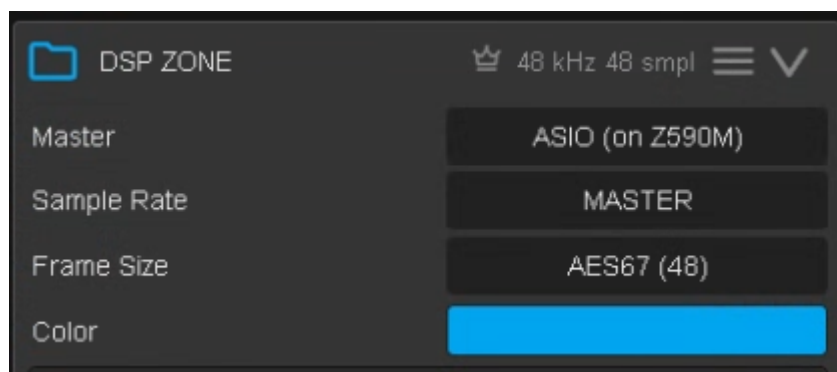
ここでは次のようなことが決められます。





Master	Master デバイスの選択
Sample Rate	● MASTER デバイスのサンプルレートに従う(MASTER)
	● 特定のサンプルレートに設定する
	● Zoneのサンプルレートコントロールを無効にする(FREE)
Frame Size	● MASTER デバイスに従う(MASTER)
	● 特定のフレームサイズに設定する
	● Zoneのフレームサイズ コントロールを無効にする(FREE)
Color	Zoneとデバイスの色を決めます

このマニュアルでは、この部分を下図のように設定しました。



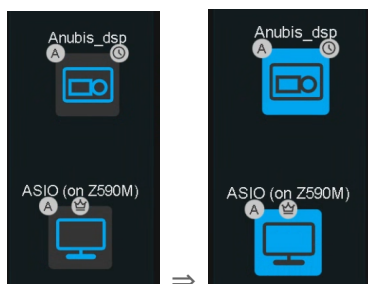
この設定により、MADのサンプリング周波数に合わせて Zone に入っている全ての機器のサンプリング周波数が変わります。



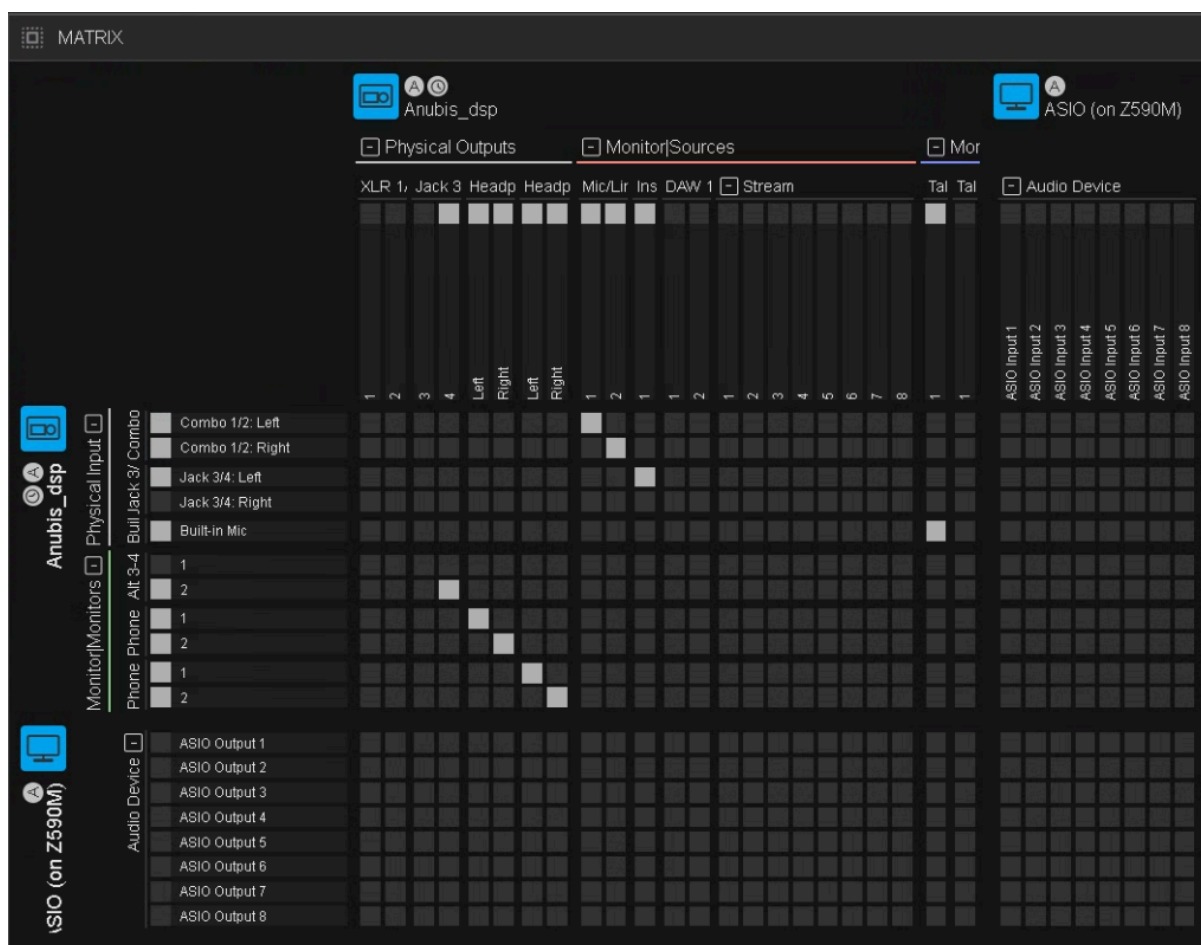


16.3. Matrix View での操作 (Anubis と DAW の接続)

16.3.1. "World View" 中の Anubis と DAW をマウスでクリックして選択します。



16.3.2. すると "Matrix View" には、それぞれの機器の入出力が表示されます。



16.3.3. 例えば、DAWのプレイバックが、**ASIO Output 1,2** に出力されるように DAWアプリケーションで設定されているとします。それを Anubis の "**DAW**" に接続します。

16.3.3.1. CONNECTIONS FROM >> にある "Audio Device (1-8)" の左にある "+" マークをクリックし、"**ASIO Output 1 ~ 8**" を表示させます。

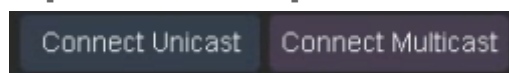


16.3.3.2. "Sources" にある "DAW1" との交点のグリッドをクリックします。グリッドが明るい緑に変わります。





- 16.3.3.3. グリッドを選ぶとMatrix右上に表示される3つのボタンの中にある
[Connect Multicast] をクリックします。

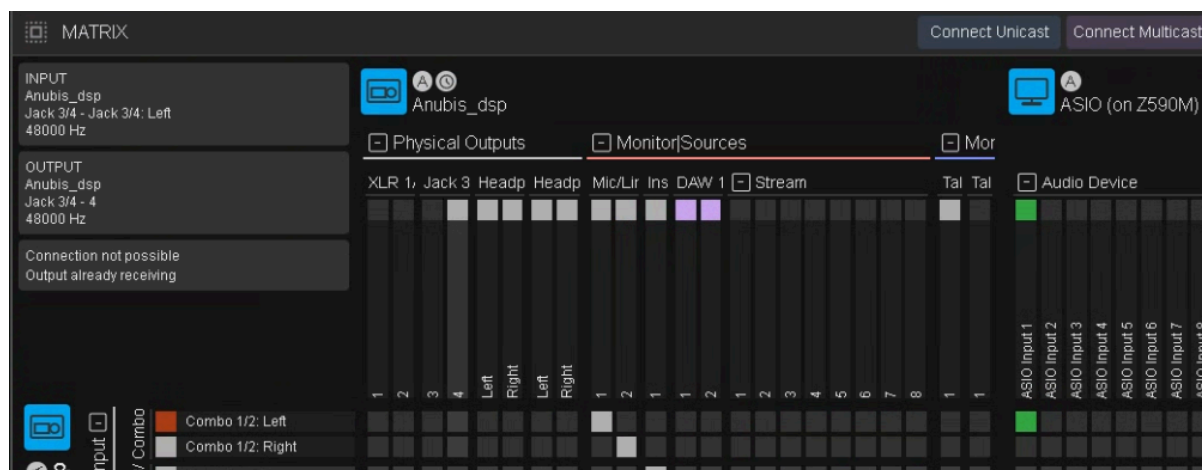


- 16.3.3.4. グリッドが数秒後にパープルに変化します。
これでコネクションが完了しました。

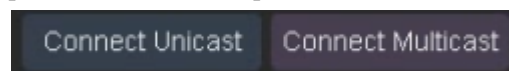


- 16.3.4. 次にマイクの録音用ラインであるAnubisの “Combo 1/2 Left” を ASIO の “ASIO Input 1” に送ります。

- 16.3.4.1. 同様に “ASIO Input 1 ~ 8” を表示させ、“Send” との交点のグリッドを選択します。



- 16.3.4.2. [Connect Multicast] をクリックします。



- 16.3.4.3. グリッドが数秒後にパープルに変化します。
これでコネクションが完了しました。

後は DAW アプリケーションで、ASIOの Ch 1 を録音する音が入ってくるポートとして設定すれば、マイクプリアンプから直接の音が DAW に届くはずでず。



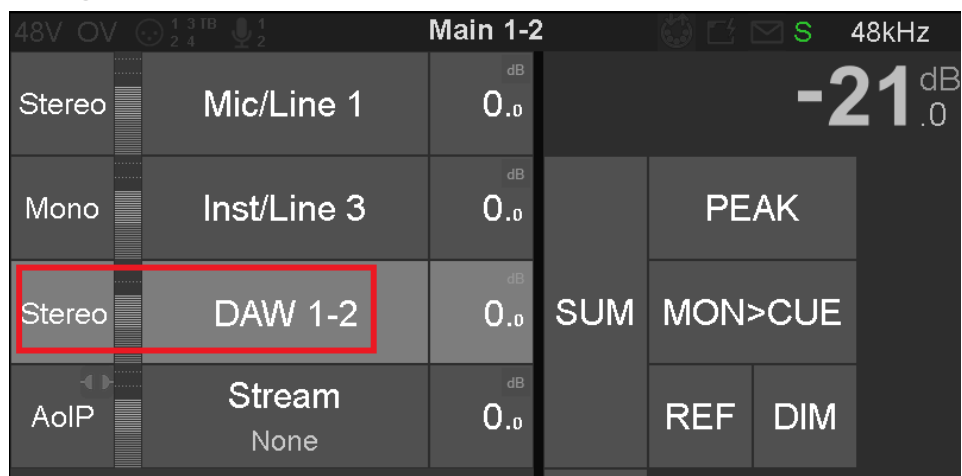


17. 操作

DAWを再生してください。



1. ホームボタン②を数回押して "Source セレクタ" 表示にし、"DAW"を選択します。

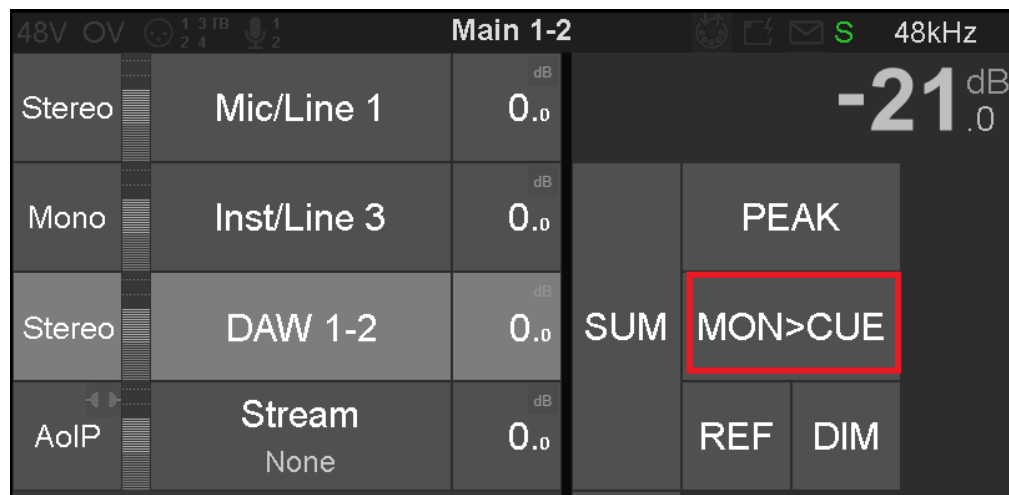



2. ボタン④を押すと、XLRから接続したスピーカーから音が出ます。音量は、ロータリーコントローラー⑨で調整できます。
3. ボタン⑤を押すと、TRSジャックから接続したスピーカーから音が出ます。音量は、ロータリーコントローラー⑨で調整できます。

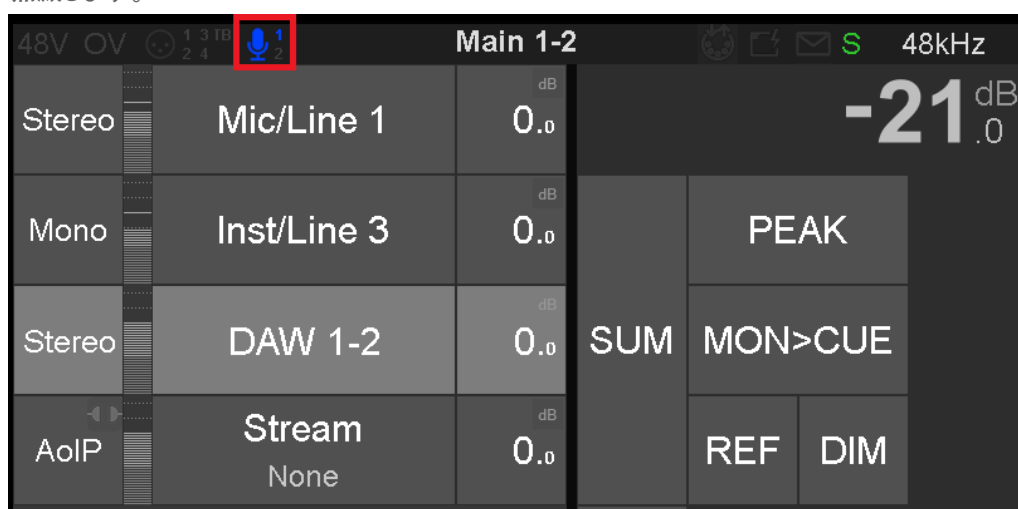




4. ボタン⑥を押すと、ヘッドフォン端子Aに接続したヘッドフォンの音量をロータリーコントローラー⑨で調整できます。
5. ボタン⑦を押すと、ヘッドフォン端子Bに接続したヘッドフォンの音量をロータリーコントローラー⑨で調整できます。ヘッドフォンBはCue送りなので、通常は何も音がでていません。”MON>CUE” にタッチすると “Source セレクター” 画面で選んだ Source が送られます。



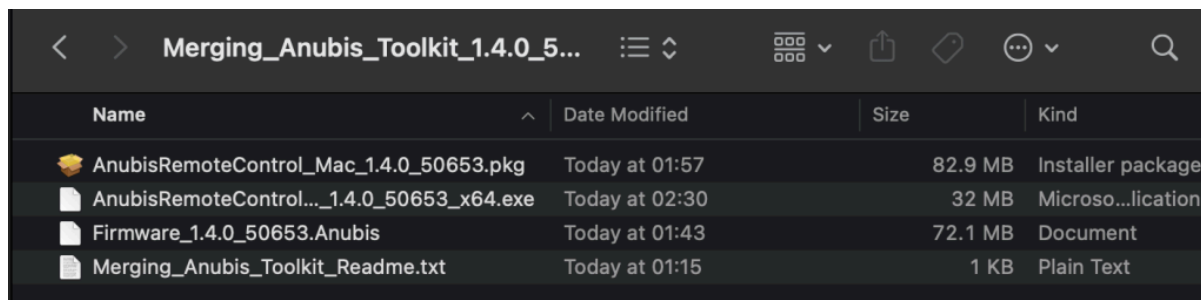
6.  Talkback ボタン を押すと、ヘッドフォンBにのみトークバックが送られます。他のSpeakerとヘッドフォンAはDimします。TalkbackがONになっている間、Talkbackボタンと画面左上部のマイクのマークが点滅します。





リモートコントロール アプリケーション

- **Anubis Firmware_1.4.0_50888** 以降では、リモートコントロール アプリケーションが使用できます。
- リモートコントロールアプリケーションを機能させるために、MERGING+ANUBISのファームウェアを同じビルドバージョンに更新することが必須です。
- そのため、リモートコントロール アプリケーションは Firmware と共に "**Anubis Toolkit**" として供給されます。
- Toolkit は、複数のファイルが圧縮された1つのファイルとして供給されます。



Name	Date Modified	Size	Kind
AnubisRemoteControl_Mac_1.4.0_50653.pkg	Today at 01:57	82.9 MB	Installer package
AnubisRemoteControl..._1.4.0_50653_x64.exe	Today at 02:30	32 MB	Microso...lication
Firmware_1.4.0_50653.Anubis	Today at 01:43	72.1 MB	Document
Merging_Anubis_Toolkit_Readme.txt	Today at 01:15	1 KB	Plain Text

- MacOSでは **AnubisRemoteControl_Mac_<Build number>.pkg** がインストーラーです。
- Windows OSでは **AnubisRemoteControl_Win__<Build number>_x64.exe** がインストーラーです。
- リモートは、**MAD** (Windows), **VAD** (Mac), **ANEMAN**, **MT Discovery** のいずれかがインストールされているシステムと同じシステムにインストールされている必要があります。
- Anubisメンテナンスページ (MAD、VAD、ANEMAN、MTDiscovery) からファームウェアをアップデートすることができます。ファームウェアのアップデートには **Google Chrome** を使用してください。

これらをインストールすると、ANEMAN など、Anubis アイコンを右クリックすると Launch Remote Control が現れますので 選択するとリモートが開始されます。

